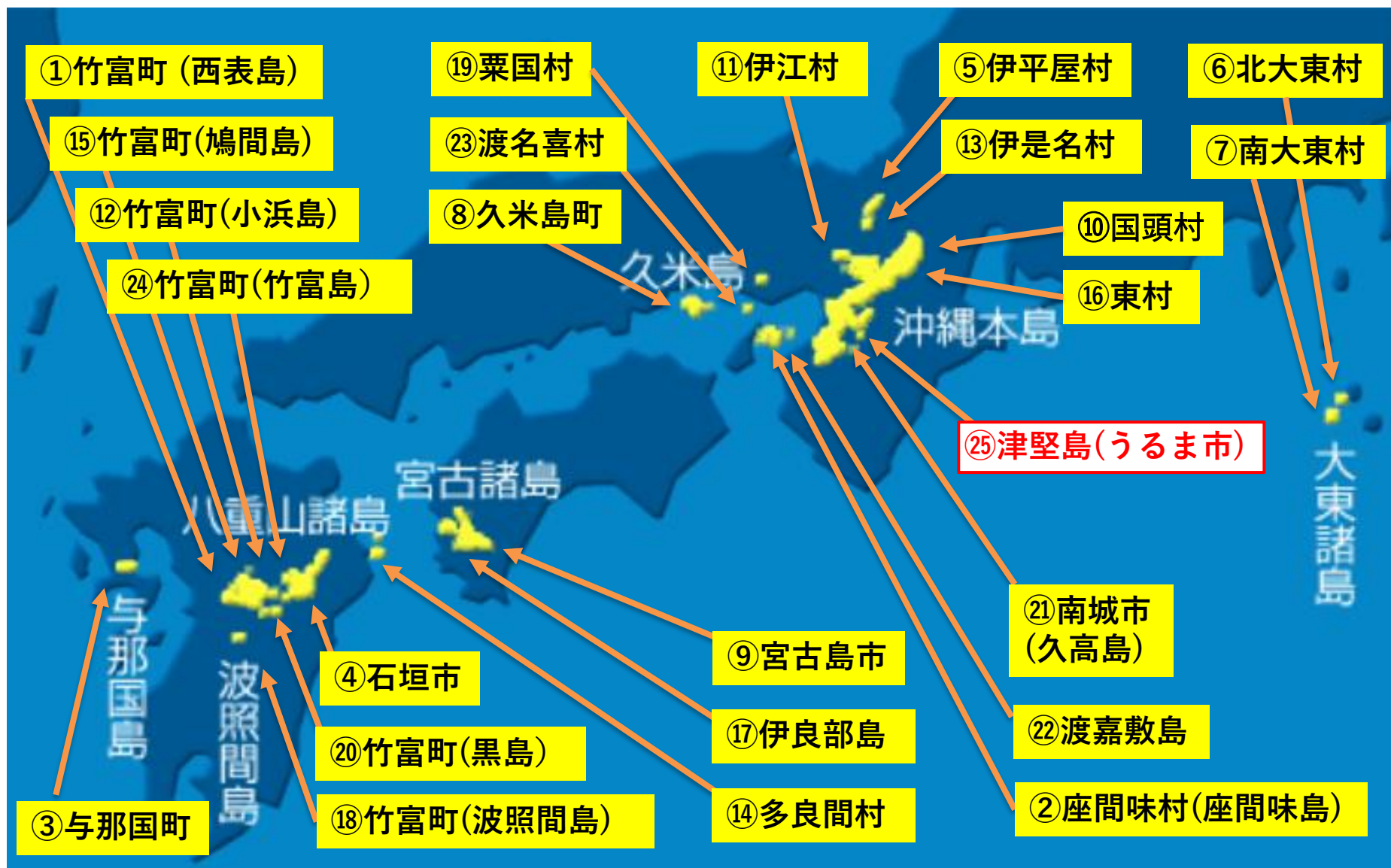


普及啓発活動をパッケージで行った 離島・へき地市町村

資料16



【がん情報提供講演会 開催一覧】

年度		離島訪問一覧	開催日時	備考
2015年度 (H27年度)	①	西表島(竹富町)	H28.3.18	がん療養場所ガイドブック活用説明会
	②	座間味島(座間味村)	H28.3.22	がん療養場所ガイドブック活用説明会
2016年度 (H28年度)	③	与那国島(与那国町)	H28.7.15	がん療養場所ガイドブック活用説明会 in 与那国島
	④-1	久米島(久米島町)	H28.9.16	もしも島でがんになったら
	⑤	伊平屋島(伊平屋村)	H28.9.30	もしも島でがんになったら
	⑥	北大東島(北大東村)	H28.12.9	もしも島でがんになったら
	⑦	南大東島(南大東村)	H28.12.10	もしも島でがんになったら
	⑧-1	石垣島(石垣市)	H29.1.21	もしも島でがんになったら 図書館でまるごと一日「がん」のこと
2017年度 (H29年度)	⑨-1	宮古島(宮古島市)	H29.9.9	がん専門医に学ぶ 医師とのコミュニケーション
		那覇市	H29.11.19	がんで後悔しないためのヘルスリテラシーってなんだ？
	⑨-2	宮古島(宮古島市)	H30.1.13	もしも宮古島でがんになったら
2018年度 (H30年度)	⑩	国頭村	H30.7.27	もしも国頭村でがんになったら
	⑪	伊江村	H30.9.13	もしも伊江島でがんになったら
	⑫	小浜島(竹富町)	H30.10.5	もしも小浜島でがんになったら
	⑧-2	石垣市	H30.10.6	がん相談できる島づくりがんピアキャラバン
	⑬	伊是名村	H30.11.2	もしも伊是名村でがんになったら
	⑭	多良間村	H30.11.30	もしも多良間村でがんになったら
	⑮	鳩間島(竹富町)	H31.2.22	もしも鳩間島でがんになったら
2019年度 (R1年度)	⑯	東村	R1.5.17	もしも東村でがんになったら
	⑰	伊良部島(宮古島市)	R1.6.7	もしも伊良部島でがんになったら
	⑱	波照間島(竹富町)	R1.7.12	もしも波照間島でがんになったら
	⑲	粟国村	R1.9.26	もしも粟国村でがんになったら
	⑳	黒島(竹富町)	R1.10.17	もしも黒島でがんになったら
	㉑	久高島(南城市)	R2.2.20	もしも久高島でがんになったら
2020年度 (R2年度)	㉒	渡嘉敷村	R2.9.24	もしも渡嘉敷島でがんになったら
	㉓	渡名喜村	R2.11.10	もしも渡名喜島でがんになったら
	㉔	竹富島(竹富町)	R2.11.26	もしも竹富島でがんになったら
2021年度(R3)	㉕	津堅島(うるま市)	R3.11.5	もしも津堅島でがんになったら

地域の療養情報

おきなわ がんサポート
ハンドブック

沖縄県のがん患者さんとそのご家族に向けて、がんに関する正確な情報をわかりやすくお伝えするガイドブックです。**納得して治療を受けていただくために治療開始前に知っておきたい情報や、相談窓口、県内の医療体制、地域の支えあいの場など、がんと向き合う方々をサポートする一冊です。**

治療と療養の過程(ライフコース)を図で示すことにより、がん治療の流れを理解しやすく説明。

ネットでもより
検索しやすくなりました。



ダウンロードは
こちらから

「がんと言われたとき、すぐに役立つヒント&リスト」
巻頭綴じ込み付

おきなわがんサポートハンドブックは**無料**です。このポスターが貼ってある施設やがん診療を行っている病院や診療所、がん相談支援センターで配布しています。ぜひお手に取ってご覧ください。

「面談にのぞむときの質問集」「わたしのメモ」付き

お問い合わせ

琉球大学病院がんセンター 〒903-0215 沖縄県中頭郡西原町字上原207

TEL.098-895-1531 FAX.098-895-1497

E-mail : mail@ryukyucc.jp
URL : https://www.okican.jp

診断後にどうすればいいか？

- 病名と病期を知る
- がん相談支援センターを利用する
- 主治医と話す
- セカンドオピニオンを活用する
- 痛みやつらさを和らげる
- すぐに仕事を辞めない
- 情報を集める
- 治療費の負担を減らす
- 妊娠の可能性を知る
- 大事にしたいことを考える





[ホーム](#) > [患者さん・ご家族・県民の方へ](#) > 患者必携・地域の療養情報「おきなわがんサポートハンドブック」

患者必携とは？

がんが診断されて間もない患者さんの思いに寄り添い、支える事の助けとなることを目指して、「信頼できる情報で、わかりやすく、役にたつもの」をまとめたものです。

1. 自分らしい病気との向き合い方を教えていくために読む「がんになったら手にとるガイド」
2. 治療や療養生活について、聞いたり調べたりして理解したことを書き留めて整理する「わたしの療養手帳」
3. お住まいの地域の相談窓口などの情報をまとめた「地域の療養情報」

患者必携の主な対象は、がんが診断が伝えられた直後（比較的最近）の患者さんです。

がんサポートブック



患者さん・ご家族・県民の方へ

- イベント情報 >
- タウンミーティング >
- がん治療について >

患者必携・地域の療養情報「おきなわがんサポートハンドブック」 >

おきなわがんサポートハンドブック（2021年版） >

■ 1. がんになったら手にとるガイド



(普及新版)

「がんになったら手にとるガイド」PDFはこちらからご確認ください。
(PDFをご覧になりたい方は画像をクリックしてください)

詳しくはこちら→ [国立がん研究センター がん情報サービス ホームページ](#)

おきなわがんサポートハンドブック(2017年版)	▶
おきなわがんサポートハンドブック(2016年版)	▶
おきなわがんサポートハンドブック(2015年版)	▶
おきなわがんサポートハンドブック(2014年版)	▶
おきなわがんサポートハンドブック(2013年版)	▶
おきなわがんサポートハンドブック(2012年版)	▶
おきなわがんサポートハンドブック(2011年版)	▶

■ 2. わたしの療養手帳



(普及新版)

「わたしの療養手帳」PDFはこちらからご確認ください。
(PDFをご覧になりたい方は画像をクリックしてください)

詳しくはこちら→ [国立がん研究センター がん情報サービス ホームページ](#)

がん患者会	▶
患者サロン	▶
沖縄県地域統括相談支援センター	▶
医療機関の情報について	▶
がん情報ブースのご紹介	▶
おきなわがん診療ネット みるん・しるん	▶

■ 3. 地域の療養情報 「おきなわがんサポートハンドブック」

2020年版よりおきなわがんサポートハンドブックのウェブサイトを開設しています。
画像をクリック下さい。

【ウェブサイト版】



案内サイトもリンクしています。

PDFをご覧になりたい方は画像をクリックしてください。



【PDF版】

がん相談窓口	▶
がん患者さんがお子様をもつことを応援する医療 「妊孕性温存療法」と「がん治療後の生殖医療について」	▶
患者サロン	▶
セカンドオピニオンについて	▶
グループ指定について	▶
患者サロン	▶



沖縄県がん診療連携拠点病院



沖縄県セカンドオピニオン実施医療機関リスト



過去の版もみれます。



地域の療養情報 沖縄県(試作版)



PDFをご覧になりたい方は画像をクリックしてください



■ 患者必携の役割

1. がんの治療経過がわかる
2. 大まかに自分のがんの状況と今後の見通しの参考になる
3. 医療者、介護や支援などの初期の理解の手助けになる
4. 療養や今後の生活に関して調べる、知るべきことを認識する助けになる
5. 患者・家族と医療者、支援者が共に同じ冊子体を使って情報共有、情報交換することによって、患者さんにとって役立つ情報が蓄積され、行動に結びつけられる。

がん医療に関する一般市民向け講演会の開催をお考えの方へ



がん医療に関する医療者向け講演会の開催をお考えの方へ



沖縄県在宅緩和ケアマップ



タウンミーティング



がん情報ブース



リンク集

アンケートにご協力ください

地域の療養情報
「おきなわがんサポートハンドブック」
についてのアンケートにご協力ください

がん体験者による、がん患者さんや
そのご家族のためのピアサポート
沖縄県地域統括
相談支援センター
琉球大学医学部付属病院内



沖縄県がん患者会連合会

[ホーム](#) > [患者さん・ご家族・県民の方へ](#) > [患者必携・地域の療養情報「おきなわがんサポートハンドブック」](#) > [おきなわがんサポートハンドブック（2021年版）](#)

地域の療養情報 「おきなわがんサポートハンドブック」 （2021年版） 2021年発行

PDFはこちらから確認いただけます。

（一括してPDFをご覧になりたい方は下記画像をクリックしてください）



患者さん・ご家族・県民の方へ	
イベント情報	>
タウンミーティング	>
がん治療について	>
患者必携・地域の療養情報「おきなわがんサポートハンドブック」	>
おきなわがんサポートハンドブック（2021年版）	>
おきなわがんサポートハンドブック（2020年版）	>
おきなわがんサポートハンドブック（2019年版）	>
おきなわがんサポートハンドブック（2018年版）	>
おきなわがんサポートハンドブック（2017年版）	>
おきなわがんサポートハンドブック（2016年版）	>
おきなわがんサポートハンドブック（2015年版）	>
おきなわがんサポートハンドブック（2014年版）	>
おきなわがんサポートハンドブック（2013年版）	>
おきなわがんサポートハンドブック（2012年版）	>
おきなわがんサポートハンドブック（2011年版）	>

巻頭綴じ込み がんと告げられたあなたへ（PDF 全6画 [PDF](#)）

信頼できるインターネット情報

診断から治療までのながれ

がんと言われたとき、すぐに役立つヒント&リスト

<本編>

表紙（PDF）

がんや療養生活について詳しく知るには・本扉（PDF P0-P1 [PDF](#)）

もくじ（PDF P2-P6 [PDF](#)）

第1部 納得して治療を受ける（第1部 扉 [PDF P7](#) [PDF](#)）（[PDF P8-P9](#) [PDF](#)）

1. がんについて相談する（第1部 第1章 [PDF P10-P13](#) [PDF](#)）

- （1）がん相談支援センター
- （2）沖縄県医療安全相談センター
- 【私を支えてくれたもの】

がん患者会	>
患者サロン	>
沖縄県地域統括相談支援センター	>
医療機関の情報について	>
がん情報ブースのご紹介	>
おきなわがん診療ネット みるん・しるん	>
がん相談窓口	>
がん患者さんがお子様をもつことを応援する医療「妊孕性温存療法」と「がん治療後の生殖医療について」	>

2. 治療について知る（第1部 第2章 [PDF P14-P19](#) ）

- （1）がん治療と療養の過程（ライフコース）
- （2）標準治療と科学的根拠（エビデンス）
- （3）臨床試験
- （4）補完代替療法
- （5）ゲノム医療
- （6）口腔ケアとがん治療
- （7）妊娠の可能性を残す（生殖機能の温存）

3. 情報を集める（第1部 第3章 [PDF P20-P25](#) ）

- （1）病名、性質、病期
- （2）主治医の説明を聞く
- （3）セカンドオピニオン
- （4）セカンドオピニオン実施施設
- （5）書籍とインターネットで情報をさがす

4. 県内の医療体制（第1部 第4章 [PDF P26-P32](#) ）

- （1）がん診療連携拠点病院および地域がん診療病院
 - （2）がん診療を行っている専門医療機関
 - （3）希少がんと小児がんの診療病院
 - （4）がん診療を行っている沖縄県内の医療機関
 - （5）離島とがん ～通院治療の選択～
- 【緩和ケア～痛みを和らげる治療について～】

第2部 よりよい療養生活をおくるために（第2部 扉 [PDF P33](#) ）（[PDF P34-P35](#) ）

1. 痛みやつらさを和らげる（第2部 第1章 [PDF P36-P37](#) ）

- （1）緩和ケア
- （2）アドバンス・ケア・プランニング（ACP）

2. 同じ病気の人の話を聞いてみる（第2部 第2章 [PDF P38-P45](#) ）

- （1）がんピアサポーター（がん経験者による相談）
- （2）患者会
- （3）患者支援団体
- （4）患者サロン

3. 自分らしく毎日を過ごす（第2部 第3章 [PDF P46-P49](#) ）

- （1）外見ケア
 - （2）さまざまな身体的症状への対応
 - （3）がんとセクシャリティ
- 【がん治療と向き合う】

4. 子どもの療養を支える（第2部 第4章 [PDF P50-P54](#) ）

- （1）入院中の教育支援、復帰支援
 - （2）ファミリーハウス
 - （3）入院中のきょうだい支援
- 【周りが必ずついている】
- （4）晚期合併症と長期フォローアップ
 - （5）養育支援訪問事業
 - （6）一時預かり事業、病児・病後児保育事業

5. AYA世代のがんを考える（第2部 第5章 [PDF P55](#) ）

- （1）AYA世代のがん

患者サロン >

セカンドオピニオンについて >

グループ指定について >

患者サロン >



沖縄県がん診療連携拠点病院



沖縄県セカンドオピニオン
実施医療機関リスト



がん医療に関する一般市民向け
講演会の開催をお考えの方へ



がん医療に関する医療者向け
講演会の開催をお考えの方へ



沖縄県在宅緩和ケアマップ



タウンミーティング



がん情報ブース

6. 自宅で療養生活を続けたい (第2部 第6章 PDF [P56-P61](#) PDF)

- (1) 在宅療養
 - (2) 訪問診療
 - (3) 訪問看護
 - (4) 介護保険
 - (5) 福祉用具・介護用品の貸与
 - (6) 高齢者の相談窓口 (地域包括支援センター)
 - (7) 介護タクシー
- 【骨髄移植を経て】

7. 最後まで自分らしく生きる (第2部 第7章 PDF [P62-P64](#) PDF)

- (1) 終末期における緩和ケア (ターミナルケア)
- (2) グリーフケア

第3部 お金のことについて (第3部 第1章 PDF [P65](#) PDF) (PDF [P66-P67](#) PDF)

1. 医療費の負担を減らしたい (第3部 第1章 PDF [P68-P76](#) PDF)

- (1) 高額療養費制度
- (2) 高額療養費限度額適用認定証
- (3) 標準負担額減額認定証
- (4) 高額療養費貸付制度
- (5) 高額医療・高額介護合算制度
- (6) 確定申告による医療費等の控除
- (7) その他の制度

2. 治療を受けながら働く (第3部 第2章 PDF [P77-P81](#) PDF)

【治療と仕事の両立支援】

- (1) 労働問題全般についての相談
- (2) 治療と仕事の両立支援
- (3) 生活から就職までの総合相談
- (4) 医療機関での就労相談
- (5) 女性の就業相談、仕事と子育ての両立などの相談
- (6) 働くがん患者の支援団体、冊子

3. 仕事を辞めて治療に専念する (第3部 第3章 PDF [P82-P83](#) PDF)

- (1) 退職に伴う健康保険の変更
- (2) 失業手当 (基本手当) の受給期間の延長

4. 家庭の状況に合う支援を受ける (第3部 第4章 PDF [P84-P86](#) PDF)

- (1) 傷病手当金
- (2) ひとり親家庭等医療費助成制度
- (3) 一部負担金の減免制度
- (4) 生活保護
- (5) 生活福祉資金貸付制度

5. 離島に住む人向けの制度を知る (第3部 第5章 PDF [P87](#) PDF)

- (1) がん治療の渡航費助成
- (2) 離島・へき地のがん患者等の宿泊支援

6. 障害についての支援を受ける (第3部 第6章 PDF [P88-P89](#) PDF)

- (1) 障害年金
- (2) 障害手当金 (厚生年金)
- (3) 身体障害者手帳

7. 子ども向けの制度を知る (第3部 第7章 PDF [P90-92](#) PDF)

- (1) 小児慢性特定疾病医療費助成制度
- (2) 特別児童扶養手当
- (3) 障害児福祉手当
- (4) その他の制度

【自分の病気を子どもに伝える】



リンク集

アンケートにご協力ください

地域の療養情報
「おきなわがんサポートハンドブック」
についてのアンケートにご協力ください

がん体験者による、がん患者さんや
そのご家族のためのピアサポート
沖縄県地域統括
相談支援センター
琉球大学医学部附属病院内



沖縄県がん患者会連合会



「早いよーる」の心でサポートする沖縄県がん情報サイト

がん患者さんのお子様をもつことを応援する医療
「妊孕性温存療法」と
「がん治療後の生殖医療」について

問い合わせ一覧（扉 P D F P93）（[P D F P94-P99](#) ）

- 医療機関一覧
- 役所・役場一覧
- 年金事務所一覧／各医療保険窓口■税務署一覧／福祉事務所一覧

ノート欄

- 面談にのぞむときの質問集（P D F [P100-P101](#) ）
- 私のメモ（担当医からの説明の記録）（[P D F 102](#) ）

あとがき 編集委員 編集協力（[P D F P103](#) ）

奥付 がんの冊子（[P D F P104-P105](#) ）

医療関係者の方へ | 患者さん・ご家族・県民の方へ | 緩和ケア研修会 | 沖縄県がん診療連携協議会 | 部会について



沖縄県がん診療連携協議会

〒903-0215 沖縄県中頭郡西原町字上原207番地

Copyright © 沖縄県がん診療連携協議会 All Rights Reserved



支え合う、あなたと大切な人たちのために

[がんと言われたあなたへ](#)

[がんと言われたとき、
すぐに役立つヒント&リスト](#)

[第1部
納得して治療を受ける](#)

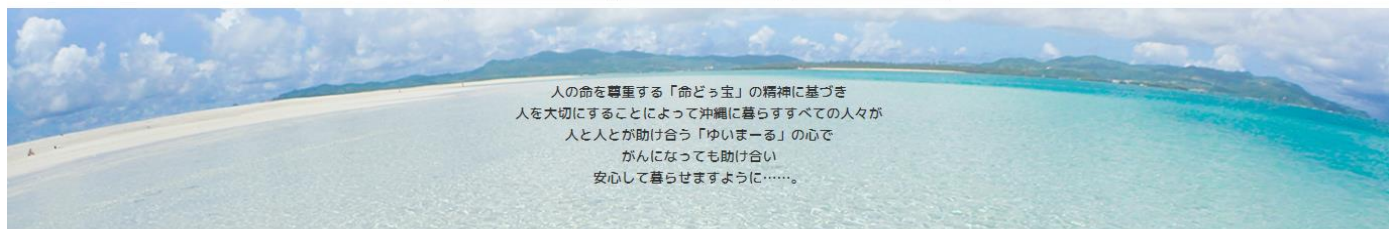
[第2部
よりよい療養生活をおくる
ために](#)

[第3部
お金のことについて](#)

[問い合わせ先一覧](#)

[体験談](#)

[ノート帳](#)



人の命を尊重する「命どぅ宝」の精神に基づき
人を大切にすることによって沖縄に暮らすすべての人々が
人と人とが助け合う「ゆいまーる」の心で
がんになっても助け合い
安心して暮らせますように……。

琉球大学病院 がんセンター
〒903-0215 沖縄県西原町字上原 207
TEL:098-895-1531 / FAX:098-895-1497

[がんサポートハンドブックについて](#) | [お問い合わせ](#) | [サイトマップ](#)

© 2021 Cancer Centre, University of the Ryukyus Hospital.
© 2021 Okinawa Prefectural Government.
All rights reserved.



問い合わせ先一覧

[がんと言われたあなたへ](#)

[がんと言われたとき、
すぐに役立つヒント&リスト](#)

[第1部
納得して治療を受ける](#)

[第2部
よりよい療養生活をおくるために](#)

[第3部
お金のことについて](#)

[問い合わせ先一覧](#)

[体験談](#)

[ノート帳](#)

[サイト内検索](#) 🔍

[お問い合わせ先一覧](#)

[医療機関一覧](#)

[役所・役場一覧](#)

[年金事務所一覧](#)

[各医療保険窓口](#)

[税務署一覧](#)

[福祉事務所一覧](#)

琉球大学病院 がんセンター
〒903-0215 沖縄県西原町字上原 207
TEL:098-895-1531 / FAX:098-895-1497

[がんサポートハンドブックについて](#) | [お問い合わせ](#) | [サイトマップ](#)

© 2021 Cancer Centre, University of the Ryukyus Hospital.
© 2021 Okinawa Prefectural Government.
All rights reserved.

第1回「がん情報提供資材 2022年版」編集委員会 議事要旨

日 時：令和3年6月23日 14時～17時

場 所：ZoomによるWEB会議

編集委員：12名（敬省略）参加11名

患者の立場	田盛 亜紀子（患者会・やいまゆんたく会会長）
患者の立場	片倉 政人（がんの子どもを守る会沖縄支部 代表幹事）
患者の立場	島袋 百代（パンキャンジヤパン沖縄支部 支部長）
患者の立場	大湾 盛治（がんピアサポーター）
※欠席／事前意見提出・電話にて対応	
地域統括相談員	中山 富美（がんピアサポーター）
社会保険労務士	金城 由紀子（キャリア自立・人財マネジメントオフィス PDCA）
社会保険労務士	高嶺 志乃（高嶺社会保険労務士事務所）
チャイルド・ライフ・スペシャリスト	佐久川 夏実 （沖縄県立南部医療センター・こども医療センター）
訪問看護認定看護師	宮城 愛子（訪問看護ステーションアレグリア所長）
医療ソーシャルワーカー	大久保 礼子（琉球大学病院 がん相談支援センター）
血液・腫瘍内科医師	増田 昌人（琉球大学病院 がんセンター センター長）
事務補佐員	城間 久美子（琉球大学病院 がんセンター）

開催の様子：WEB画面



内 容：議事次第により進行

1. 開会

14:05より開始

2. センター長の挨拶

琉球大学病院 がんセンター長 増田昌人より編集委員への挨拶及び 2022 年版についての抱負を述べた。

3. 編集委員自己照会（資料 1）

資料 1「編集委員名簿」順に参加者 11 名が自己紹介を行った。

3. 見直し案の検討及び意見交換（資料 2）

※本会議より先に意見用紙の提出を求め、集約した資料 2 を基に本会議での各自答弁にて意見交換を行った。

2021 年版についての感想 →意見項目 1 から 9 までを事務局より代読。	
1	これまで以上に内容が充実し良い冊子に仕上がっていると好評を得ている。 自身も実感している。 ×3 名
2	がんと診断され最初に見る冊子として浅く広い分野で紹介されているので良い。
3	脾臓がん支援団体への相談は、治療は他にないか、ゲノム医療はどういったものか、仕事はできるのかということが最も多い内容です。P78～の就労については、どこに行けば情報を得られるのかが詳細で、安心できる内容のようです。しかし、治療・セカンドオピニオン・ゲノムなどは、より具体的な内容が必要かと感じています。
4	診断されたばかりの患者様は、がんサポをすぐに受け取らない方も多く存在している印象です（精神的に読む気持ちにならない感じです）。しかし、側にいる家族にとっては非常に重要な内容が多いと感じる。
5	巻頭綴り込み・巻頭タイトルページの写真及びメッセージ、各部巻頭の写真等はハンドブック全体を通して温かみが伝わってきます。
6	体験談／P13.32.49.53.92 面談にのぞむときの質問集／P100 良いと思います。
7	P14.15 第 1 部 2.ライフコースは治療の流れが可視化されており、がん治療のイメージの助けになると思います。専門用語の説明があることで、フローの理解につながる。
8	誠実で温かみを感じる冊子である
9	読み込んで行くと、最終的には患者、主治医、看護師、ソーシャルワーカー等の専門的な指示・指導にならざるを得ない。このハンドブックとの項目・内容は素晴らしいものであり、市町村レベルの健康福祉担当者の支援ハンドブックとして活用する方法を考えて行きたい。
2022 年版に関する変更・要望・提案	
※以下は、具体的な答弁や他の方の意見を交えてのディスカッションを目的に、記名の承諾を得た。 →2021 年版がんサポートハンドブックを参照の上意見交換を開始	

1	冊子の作成が目的ではなく、活用されることが大前提です。 これまで通り、増田先生はじめ、編集委員の各専門分野の意見を基に構成され、より活用しやすい冊子となることを望んでいます。→欠席のため、事務局が代弁した。	(大湾様)
2	P2～P6 もくじをフローチャート（図）にする （片倉）フローチャート式にすることで、得たい項目が探しやすいと思い提案した。 →（田盛）P2～6 についての目次についての提案か、全体的に図式化したほうが良いという事が、であればページを削減ではなく更にページ数が増えるのではないかな。 →（片倉）例えば、がんになった、病院はどこに、次はお金の問題はこのページ、という風に図式化すると分かりやすい。現行は項目ごとにページが並んでいるが、フロー化した目次の中に、問合せ先の一覧を入れ込むのはどうか。詳細は〇〇ページと記載すればより分かりやすいのではないかな。QR コードの記載まであれば更に情報取得が早くなる。 →（田盛）私は患者会の代表という立場で係わっており、年齢層から察するに現行のとおりを望む方が多数である。スマホや QR コードを使わない方が多く、フロー化するとページ数が増える。 →（片倉）であれば問合せ先一覧を省いて QR コード記載のみに変更するとよい。 →（田盛）幅広い年齢層が活用するには誌面が良いと思う →（片倉）私自身も小児がん患者会を主催している。本会議にてページ削減箇所を求められたため提案している。また、65 歳以上 70 パーセント以上がスマホを使っている。今後 5 年 10 年先を見据えての提案である。→意見を集約し事務局で審議し、議事要旨にて報告することをつたえた。	(片倉様)
3	→（中山）ホームページの照会(誌面上)を QR コード標記にしてはどうか例えば P18 や P24 など。→議題内容により今後委員各位にメール等にて再検討課題として問うこともあるとつたえた。	(中山様)
事務局として検討し、各ホームページの照会を URL と併せて QR コードの記載を決定した。		
4	P13,32,49,53,61,77,92 項目毎（相談、お金、仕事、保険等）の体験談の追加 （片倉）ピアサポートの活動の中で、お金や仕事、生命保険など、細かい内容を聞かれることが多く、体験談に追加してはどうか → 検討	(片倉様)
事務局として検討し、コストの問題上、削るページが必要になる。体験談は基本的に年度毎に入替える。また提供者の生存を確認する(ご家族への配慮は必須) 各位に承諾を得る。さらに体験談の提供者も募る。(削除 20 回答同じ)		
5	P20～22 3.「情報を集める」の項目は患者が知りたいことで、特に重要だと思う。 →事務局代弁 P20～22 など分かりやすく、簡潔に箇条書きではどうか。 （宮城）冊子をコンパクトにするのであれば、例えば病名や性質について箇条書や小見出しに分けるなど書き方の工夫を提案 →（田盛）患者会の意見としては、患者さんが不安な中で手にとり、よく読んで納得できる大切な内容が記載されているため簡素化する必要はないと感じる。 →（宮城）改めて読み返すと優しくて丁寧だと思った。他に削除項目が見つからず、本冊子をコンパクトにするならこの項目をと提案した。 →（田盛）初見の方にはより詳しく分かりやすいためこのままでよいと思う。→検討	(大湾様) (宮城様)
事務局として検討し、タイトルを変更するとした。→ 再検討		

6	P22 セカンドオピニオンについて、国立がん研究センターはオンラインで診断している。 追記を検討してほしい。	(中山様) (島袋様)
7	(中山) 国立がんセンターで実施している事を最近知った。記載はないが、がん種の中でも希少がんの方が対象だったと思う。その情報が記載されていれば、移動せずともセカンドオピニオンが可能である。ただ期間があるのか、詳細は分からない。→同意見の島袋様へ繋ぐ P22 セカンドオピニオンの受診方法について、図式化した方が解りやすいのではないかと思います。 (島袋) 実際に希少がん患者さんから相談があり、私自身が SNS で国立がんセンターの情報を持っていたため情報提供すると、患者さん自身はそこまでとり着けない情報であったと喜ばれた。そういう方に届く情報提供が必要ではないか。コロナ禍において、国立がんセンターではオンラインでのセカンドオピニオンが始まっています。その情報および、県内でオンライン診断ができる病院があれば掲載してはどうか。 →(中山) 県内でもオンラインで受診可能な病院があれば増田先生教えてください。 →(増田) 現時点ではないかもしれないが、どこの病院もオンライン開設に向けて検討中。民間病院の方が実施しやすいかもしれない。実際オンライン受診は非常にハードルが高い、当院も暗礁に乗り上げているのが現状。一番にセキュリティ面で苦慮している。究極の個人情報となり、国立病院であるため、情報管理の厳しさ故、民間病院の方が先行できると感じている。当審議内容は、コロナ禍で全国統一課題であり、一定の地域を起源に一斉に広がるのではと感じている。実施は必要であり今後の情報収集に努め皆さんに提供する。 →国立がん研究センターに確認し追加記載を検討する。	(島袋様)
事務局として検討し、受診方法の図式化は難しいため不採用。P23 の一覧表に追記する。		
8	漫画形式でセカンドオピニオンや治療に関する用語（緩和ケア・寛解・ターミナルケア）などを説明する方法もあるのでは。(参考資料あり) (佐久川) 増田先生の仰る通り、活字離れの状況と、子供と接している立場から新しい提案を考えた時に漫画形式のページもあると興味が沸き手にとる世代も増えると感じて提案した。 →意見を求めるも特になし。事前に佐久川様より漫画の参考資料を受取っており、興味のある方は事務局から送付する旨を伝えた。佐久川様へは新たな資料等があれば提供をお願いした。	(佐久川様)
事務局として検討し、小児がんの場合本冊子の対象は保護者となるため、漫画形式は不採用		
9	P28.29 小児がんについての医療機関の記載 P30 沖縄本島と離島病院との連携についての記載 (片倉) 各医療機関の一覧に小児がん治療を行っている病院名の追記の要望と、現在、診療の度に宮古と本島を往復しているが、本島と離島の連携先の病院が分かれば、継続的な治療につながると思い提案 →(増田) これまでは病院側からの表示により掲載しているが、4月より県側が精査した結果、県HP 上大幅に減っており正しい情報を記載してる <2022 年版要訂正>	(片倉様)
事務局として検討し、P28.29 一覧表は沖縄県保健医療部医療政策課 HP を転記することが仕様要件であることから、追記はできない。また県内小児がん医療機関は 2 か所（南部医療センター・琉球大学病院）であり、P30 連携先の掲載については、症例によって連携先の変更などもあり一元化できないため、記載は現実的ではない。		

10	P37 (2)アドバンスケアプランニング→ P46 以降 3.「自分らしく毎日を過ごす」内に移動を検討 (金城) 専門的知識からの観点ではなく、一読者として感じた意見であるが、違和感を覚えた。	
11	P47 (2)さまざまな身体的症状への対応 → P36 以降 1.「痛みやつらさを和らげる」内に移動を検討 (金城)同じく項目の内容で移動が適切かと感じた。 → (田盛) →P37・P47 同意見である。 →担当者と事務局間で検討	(金城様)
事務局として検討し、10、11 について大項目 (P36～48) の順番を変更し、更に項目の移動を決定した。 <u>新) 1 痛みやつらさを和らげる(1)緩和ケア(2)さまざまな身体的症状への対応 2 自分らしく毎日を過ごす(1)外見ケア(2)がんとセクシャリティ(3)アドバンスケアプランニング(ACP) 3 お直治病気の人の話を聞いてみる(1)がんピアサポーター(2)患者会(3)患者支援団体(4)患者サロン</u>		
12	下記内容の追記紹介が出来るか？ご検討をお願いします。 55 ページの AYA 世代のがんを考える http://www.ccaj-found.or.jp/materials_report/cancer_material/ の AYA 内容は、 平成 27-29 年度厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)「総合的な思春期・若年成人 (AYA)世代のがん対策のあり方に関する研究」(研究代表者 堀部 敬三)において行った患者家族の実態調査の結果に基づいた患者家族向け冊子です。(2018 年 2 月 12 日発行 一般社団法人 AYA がんの医療と支援のあり方研究会:AYA 研 (https://aya-ken.jp/) の発行です。(片倉) HP 情報を追記できないか提案した。→ 検討	2021/2/15 メール内容 (片倉様)
事務局として検討し、上記 HP 情報は構成上スペースを削減できれば追記は可能である。		
13	P57 (2) 訪問診療 … 修正案 «1 行目» 訪問看護とは、医師が… <u>自宅訪問し</u> → <u>自宅や施設を訪問し</u> «4～5 行目»…送ることが <u>できる体制を整えます。</u> → <u>できるよう支援します。</u> (宮城) 4～5 行目の文言について、現在関わっている訪問診療の先生と再考→回答まち	
14	P77 体験談／治療と仕事の両立支援 … 修正案 «4 行目»… <u>本当に両立できるか心配する相談です。</u> → <u>本当に両立できるか心配していると言う相談です。</u>	(宮城様)
事務局として検討し、提案通り文言を修正する。		
15	P78～81 「治療を受けながら働く」について (1)～(5)の配置変更が必要かを検討しています。 (金城) 前任の見解で引き継いでいるが、項目内容と、相談窓口等の専門性にずれがある。校正 «原稿»の変更等を提案 → (大久保) 当初制作に携わり、病院での出張相談なども開始前で、その時の校正«原稿»がそのままである。現状にアレンジすることに賛成。医療機関での就労相談とかそのあたりを順番として最初に挙げて、労働トラブルなどは後回しでも良いのであれば項目を 5 番ぐらいにするなどのアレンジは有効だと感じた。→ 金城・高嶺・事務局にて検討と回答	(金城様)
事務局として検討し、大項目の順番を変更とした。担当者金城先生及び高嶺先生へ報告し承諾を得る。→両名の承諾を得た。 <u>新) 2.治療を受けながら働く (1)医療機関での就労相談 (2)治療と仕事の両立支援 (3) 労働問題全般についての相談 (4)生活から就職までの総合相談 (5)女性の就業相談、仕事と子育ての両立などの相談 (6)働く患者の支援団体、冊子</u>		

16	P87 (2)離島・へき地のがん患者等の宿泊支援 «1 行目»放射線治療...とあるが放射線治療だけが制度対象と考えてしまいやすい。実際は放射線以外での適応もある。 文言の検討依頼 → <u>放射線治療をから放射線治療等</u>と追記だけで解釈が広がると思う。 → (田盛) <u>等を追記で良い。</u> → <u>他の意見無く決定。</u>	(宮古島在 : 相談員)
17	拝読し易い文字の色についてがん患者の皆さんは比較的高齢者が多く、視力の衰え等でハンドブックの文字が読みづらいとの声が多く寄せられています。 カラー5色で構成されているが、第1部や2部のイラストにある会話部分のグリーンやオレンジの文字等は特に読み辛く、眼鏡無しでは読めないと不評です。連絡先の電話番号や問い合わせ先のP〇〇の文字なども其々のカラー使いを無くして黒にした方が目立って良いと思う。(田盛) P12・25のイラストに掛かる文字が特に薄く以前化から伝えているが変わらない、またP36の問合せ先→P10表記同様に黒文字に変更を要望→(大久保) 色弱の方などにも対応できるよう事務局含めデザイン制作側とも相談したほうが良いと思う→(田盛) 黒文字にしない理由があるのか→制作会社オフィスユニゾン担当者の三枝氏に議事内容を理解していただき調整する→(片倉) P63の様に色で囲んで文字を黒にするとよい → (田盛) 読めることが第一要件であり見た目(で在院重視)より優先してほしい。→制作会社へ議事説明時にP63の表記の参照を加える。	(田盛様)
事務局として検討し、制作会社担当者の三枝氏との調整により変更する。		
18	全体的に文字が多いので、図や表を増やし、情報が患者に入りやすくする工夫も必要では。 (島袋) フローチャートや漫画、QRコード記載などを提案 → 検討	(島袋様)
事務局として検討し、情報取得を容易にする工夫としてQRコードの記載を決定した。		
19	初めの折り込みページおよび相談をする項目 緩和ケア認定看護師やがん看護専門看護師が存在する病院もあると思います。活用できるよう情報として掲載はいかがでしょうか。 他、乳がん、嚥下、皮膚創傷などがんに関連した看護師の存在の掲載は必要でしょうか。 →(島袋) 主治医だけではなく認定看護師の情報提供を要望。相談先が分からない患者さんが多々いるため。→検討	(島袋様)
事務局として検討し、認定看護師及び専門看護師の重要性は現場で従事している者や患者さんは実感するが、各医療機関により配置の有無が生じており、情報提供には混乱を招く懸念があるため、不採用とした。		
20	医療者にとっても患者様、ご家族への説明には非常に役立つリソースとなっています。今後、医療者へもサポートブックの感想や使いやすさなどのアンケートを実施してみるのはいかがでしょうか。その際に、がんサポの利用率・知名度なども合わせて集計してみることで、今後の活用拡充につながるのではと思います。(島袋) 本冊子の医療従事者への認知度を高めるためにもアンケート実施を提案 → 以下22でアンケート実施について説明する。	(島袋様)
21	「"がん"て何だろう」と定義するのはどうでしょうか。そこで、がんの治療のために抗がん剤治療、手術、放射線治療が必要なことを伝えてはいかがでしょうか。患者様は治療がきつくて、治療を辞めたいことがあると思いますが、治療の必要性を伝えてはどうでしょうか。心のケアの専門家、精神科医、心療内科医等への相談は可能でしょうか。意見を促した→田盛様より賛同を得た。検討	(高嶺様)
事務局として検討し、各医療機関によって科、担当医の有無等状況が複雑であり、情報提供には混乱を招く懸念があるため、不採用とした。		

22	沖縄県がん患者会連合会様より 「がんサポートハンドブック」のサイズを現在の 1/2 ほどにし、ポケットサイズにする方が、患者や家族の方々に手に取っていただきやすいとのご意見がありました。 つきましては、上記について委員会開催時に委員の皆さまへお伝えいただけますでしょうか。 2022 年版では難しいかと思いますが、2023 年版以降の作成時に患者会連合会様のご意見をご検討いただければ幸いです。（メール抜粋） →（田盛）現サイズが適当。本島との往復で機上でも病室や待合室でも広げやすく携帯にも丁度良い。2/1 サイズとなれば、厚みが増す懸念とページを減らすには文字の縮小となり更に読みづらくなる懸念がある。 →（金城）今後は世代交代に併せてスマホ等「デジタル化」に移行していくにしても、現世代「概ね 70 代」の間ではまだ誌面を通して情報を得ていることを考慮して、現サイズがベストである。 →（片倉）小さくするとは、文字を単純に縮小することではなく、例えばがんの部位毎に記載された QR コードを写すと YouTube に飛ぶ、または音声で説明が聞けるなど、今からを見据えてのサイズ縮小の提案ではないですか？県内でも新聞 2 紙はデジタル版が普及しており紙面発行部数は減少している。医療講演会も YouTube で一方的に流し質問等はメール対応の形態が増えている →（増田）県への要望として「沖縄県がん患者連合会」から上がってきたようです。15 年前ほど前から医学科の学生 30 人を受け持っているが全員新聞を読む習慣がない。彼らの親世代でさえも読まない。そのあたりも踏まえて皆さんに考えて頂きたい。 →（金城）増田先生や片倉さんの意見等も理解できるが、やはり高齢者の事を考えると、ちょうど今過渡期なので、増田先生両誌作成することは可能か。 →（増田）予算の問題がある。実務的に可能であっても、今年度の予算に組み込まれていないため、次年度以降の計画に向けての検討課題。皆さんには最終的にどの年齢層が読むのかななどを考えて頂きたい。2022 年版は部分的に変えていく必要はある。片倉さんや他の方も述べられたとおり YouTube での提示の工夫も必要になってくる。昨年度、情報提供相談支援のワーキングで全がん連理事長の天野氏より、現状は HP でさえも読まない、検索し動画で情報を得るのが主体であるため YouTube 配信を促されている。更に国立がん研究所の希少ガンセンターは全て YouTube で動画配信している。しかし逆に、がん対策情報センターは活字で情報提供を考えており、私自身も携わっている。過渡期であるため、良し悪しではなく、本委員会では沖縄県の実情を、型にはめずに少しフレキシブルに意見を交換し合い、徐々に意見をまとめて形にしていけば良いと思う。 →（金城）過渡期であることは承知した。実際に患者さんにハンドブックを手渡しする方々の意見をリサーチするためアンケート等で結果を判断材料にするのはどうか。用務的には可能か。 →（田盛）アンケートについては患者会代表に取りまとめてもらい実施する方法はスムーズだと思う →（増田）その時お願いしたいのは、患者会でまとめて、会員以外の方をお願いしたい。全がん連での認識として、患者会会員はプロ化しており、皆さんも編集委員のプロフェッショナルであるため、冊子の内容が頭にインプットされている。必要な判断材料は、告知され頭が真っ白な状態で人に会いたくないとか、主治医にも会いたくないとか、それでも何とかしなければという状態の患者さんが対象の冊子なので、究極は告知直後の方の意見が望ましいが、現実問題としてそのような方々に依頼はできない。よって一般の方で 70 代前後の方を対象に実施計画中である。	沖縄県保健医療部健康長寿課 がん対策班 喜屋武様（会長：田名様）
----	--	--

	→（事務局）現在、かりゆし長寿大学同窓会の事務局と交渉しており、県との調整を踏まえてアンケート実施予定。対象は、県内広域在住、70代前後、男女10名。選別は同窓会事務局の方に一任しているため、依頼者の中にはがん患者、患者家族、医療従事経験者が含まれている可能性もある。 →（田盛）患者会活動の中で、会員を募るため八重山病院に働きかけるが個人情報保護法により情報は得られない。入会される方は支援センター経由若しくは知人などからの口コミによるもので、告知間もない方を探すことはできない。 →（金城）やはり医療従事者・ソーシャルワーカーさんの意見も必要ではないか。 →（事務局）これまでも患者さん及び医療従事者に実施している（実績：第1版・第3版）が2022年版は冊子を一新したい意向であるため、新鮮な目線での参考意見と見識を広げるためにも必要との考えから一般の方を主体に行う予定である。その結果を踏まえて再度検討する。	
	事務局として検討、以下のとおり。 ・7/25実施のアンケート結果も踏まえてサイズ変更の必要はないと判断した。 ・You Tube は今後の検討課題として扱う ・本冊子の対象年齢はがん患者16歳から74歳（後期高齢者除く）、またその家族（40代～60代）のネットを使わない方。更に冊子を読まない方対象にはWeb版を提供している。	
23	2022年度発行の時期について、制度改正が間に合うなら慣例通り3月末（新年度版発行）で良いか。制度改正に間に合わなければ12月末（新年版発行）でよいのか？（入稿から校了のタイミングで図る） →（増田）問の意図は、これまでに、自身若しくは配布先にて、表紙の表記上、西暦と年号の両方が記されているが混乱したことはないか、2021年版であり、令和2年度県委託事業とあるため、2021年は令和3年にあたるが、事業年度は令和2年度であるため統一する策を一考頂きたく提案した。 →（田盛）定年まで石垣市職員であったため説明します。行政事業は発注した年度で予算執行とするため、予算会計年度が令和2年度であり、冊子は2021年版と理解できれば混乱はないと思う。 →（大久保）病院で多く配布しているが、疑問に持たれたことはない。表紙にある令和2年度沖縄県委託事業はタイトルではないので、混乱を招く並列を避けて例えば裏表紙に令和2年度沖縄県委託事業を移動できるか、検討してはどうか。 →（片倉）例えば表紙上に2021年版を記して、写真の中の一番下に令和2年度県委託事業でいいのでは、裏表紙では県が承知しないと思う。若しくは「地域の療養情報2021年版」を下にし、令和2年度版を上（レイアウトの変更案） →（増田）県からの要望上、必ず表紙に県委託事業を明記する必要がある、また裏表紙への明記案も過年度に訂正の経緯がある。改めて（レイアウトの変更）案を県に提示する。	（事務局）
	事務局で検討し、レイアウトの変更案を県に確認し制作委託先と調整する。	

24	▷4_資料-5 P14-15 緩和ケア図案【画面の】共有 表示 ▷緩和ケア図表を提示し説明する（ライフコース）の図が見開きの為矢印の方向が分かりづらいと感じ、タテの1ページで収まる図を作成してみた。あくまでもラフ（草案）である。 →（田盛）一目見ただけでこの図が見やすいので変更を推奨します。 →（金城）同意見です。→礼を述べ、制作委託先との調整により、決定する旨を伝えた。	（事務局）
事務局として検討し、制作委託先と調整。図内の線の色や太さの強弱をつける（原稿図を参照）		
25	▷5_資料-6 表紙案【画面の共有】表示 ▷初めにお断りいたしますが、この表紙案はあくまでも草案です。これまで表紙をはじめ扉やキャプション等のビジュアル面をお任せしていました、垂水健吾氏の写真から、他の方に変更するというのはいかがでしょうか。制作委託先との相談により決定いたしますが、先に編集委員皆様のご意見やご提案を伺い、本会議での総意をまとめてお伝えいたします。 →（田盛）明るくて良い。但しタイトルは黒文字で大変読みやすい反面、以前患者さんから、人前で読むには抵抗がる、タイトルでがん患者だと他者に気づかれたくない。という意見がある、表紙にブックカバーをつけることを提案した経緯がある。しかし、予算上かなわなかった。 → 礼を述べた。《意見を参考にタイトル色、フォント等含め各位に変更案の提案を試みる。》	（事務局）
事務局として検討し、制作委託先と調整、その後、各位と調整		
削除したい項目等		
1	・表2「がんや療養生活について・・・」 ・巻頭綴じ込み「信頼できるインターネット情報」いずれも P24「書籍とインターネットで情報をさがす」と同様であるためまとめてはどうか →（金城）削除項目を探すのが大変であったため内容を削除するよりも、まとめられるページを提案した。 →（田盛）提案内容が分かりにくい説明を求めた。 →（金城）巻頭綴じ込みページに「がんになったら手にとるガイド」とP24にも同本の紹介があり重複しているのでまとめてはどうか。→重複している箇所は審議の必要がある旨を伝えた。 →（中山）「がんになったら手にとるガイド」はがんに関する一番大事な情報が網羅されている。がんサポを手にとったときに最初に目につくように、「がんになったら手にとるガイド」とホームページの情報を掲載してほしい。出来ればP24そのまま記載してほしい。ピアサポーターの用務に於いて、ネットで様々な情報が氾濫している中で、最も信頼できる情報として案内している。 →（金城）割愛するのではなく、レイアウト上どちらかにまとめた方がより伝わるかを感じた。 →（中山）何度記載されても良いと思うほど重要な情報であると思う。→記載の方法（構成）などを検討	（金城様）
事務局として検討し、削除候補である。再度編集委員各位と調整し決定する。※12 宮城さん意見も含む		

2	・P7 第 1 部 納得して治療を受ける →上半分の枠の中に p9 の説明文を入れ、下半分の写真を縮小する。 P8.9 の写真を無くす事により 2 ページ削除できる。 ・P8.9 写真 文章は P7 に移動 ・P8.9 写真を半面にする (田盛) 毎年写真「扉、リード」ページを入替えているが写真を入れる効果についてお聞きたい → (増田) 基本的に 10～20 ページ以上の冊子の場合、活字だけでは飽きてしまい、冊子を捨てるというのが定説であり、読んでもらうため 10 ページに 1 ページ程度、概ね一割は捨てページを割り当てている。最後まで読んで頂けないのが実情であり、写真やイラストを入れてしっかり読んで頂く工夫をしている。現在進行中「国の直轄事業」の全がん患者さん対象の 28～32 ページの冊子を編集しているが、大部分をイラストにして、活字は 3/1 程度でなければ読まないというプロ編集者の意見である。 → (田盛) 昨年 100 ページの記念誌を作成し、50 ページは写真を掲載したところ、大変喜ばれ、写真の効果を実感した経験もある。本会の議事内容で、削除したい箇所を求められたので、あえて提案した。 → (増田) 意見を否定するわけではなく、改めて皆さんに本文の削減をお願いしたい。。ページ数及び文字数が非常に多く、おそらく情報過多になっているため活字を減らしたい。最終的には皆さんのご意見をまとめて作成する。 →同意見の 3 名に答弁を促すも意見無し	
3	・P33 第 2 部 よりよい療養生活をおくるために →上半分の枠の中に p35 の説明文を入れる。 P34.35 の写真掲載を無くす事により 2 ページ削除できる。 ・P34.35 写真 文章は P33 に移動 ・P34.35 写真を半面にする ※項目 2 同内容のため割愛する旨を伝え全員の承諾を得た	(田盛様)
4	・P65 第 3 部 お金のことについて →上半分の枠の中に P67 の説明文を入れ、P66.67 の写真掲載を無くす事で 2 ページ削除できる。結果 6 ページ分の削除が可能となります。 ・P66.67 写真 文章は P65 に移動 ・P66.67 写真を半面にする ※項目 2 同内容のため割愛する旨を伝え全員の承諾を得た	(大湾様) (島袋様) (片倉様) (金城様)
2.3.4 について事務局として検討し、制作担当と調整の上で進行する。→ 調整中		
5	P10 ・第 1 部 1 章がんについて相談するについて、他項目での相談窓口情報もあり重複しているため削除して良いのでは。 ・吹き出しによるページ照会 削除を希望 (佐久川) まとめられる箇所を探して相談窓口の情報がいくつかあり統一を提案した。→ (中山) 吹き出しの部分は特に必要ないと思う →検討	
6	P11.12 イラスト削除希望 P12 イラスト削除検討若しくは縮小 → 検討 事務局として検討し、P11 と連動するため削除とする	(中山様) (宮城様) (金城様)

事務局として検討し以下のとおり決定した。 （大久保）→5.6について、相談支援センターの紹介ページとして吹き出し表記にすることで利用者が反映しやすいため削除しない。イラストも相談室の堅苦しいイメージを緩和するために必要である。スペースをあける案としては、吹き出しとイラストを縮小し、吹き出し2件削除<①セカンドオピニオン P22②退院すること…P56>更に（1）がん相談支援センターの項目と■沖縄県内のがん相談支援センターをまとめることで文章を縮小する。また、P12のSW協会案内をP11の病院一覧の下に移動する。 →再検討（P11 イラスト縮小、吹き出し残す。P12 イラスト削除とする。）⇒P12の（2）沖縄医療安全センターの情報もP11に移動し、P12を削減<レイアウト変更案作成済み>		
7	P16 写真 写真と歌詞 → 検討	（宮城様） （島袋様）
アンケート結果も踏まえて、制作委託先と調整し、ページ削減に伴って一部削除等、検討中。		
	《全般的な意見として》 →（増田）削る項目ではなく、必要な項目について、改めてディスカッションしても良い。 例えば50ページの予算しかない場合、残したい項目を考えた方が判断しやすい。 冊子創刊の経緯：国から本冊子の必要性について、当初《がんになったら手にとるガイド》を全がん患者に無料配布を示唆するも、結果、定価千円の購買形式となり、本冊子は補足の役割として地域に絞り込んだ情報を掲載すること（地域の療養情報）を目的に発行した。しかし《がんになったら手にとるガイド》が全く普及せず、おのずと《がん…》の重要な項目を掲載する必要性に伴って本冊子が徐々に肥大化している。本来は《がん…》を読んで頂き、問題があればがん相談支援センターを利用し、そこでローカル情報を得るために本冊子を活用して頂くのが本筋である。 ただし本冊子を否定するものではなく、他県の指標となっている。今後、本冊子の中で強調したいことを、例えば、一つは文章、一つはイラスト、一つは表を用いて、ページを23ページ程度にし、余った時間をYouTube作成に充てた方が、患者さんの為にも良いのかと思案している。 《今後の情報提供手段としてYouTubeへの移行をリサーチする》	（増田先生）
8	P17（3）臨床試験 （4）補完代替療法 → 推奨しているような印象を受ける （中山） ページを割いて載せる必要はないと思う → 検討	（中山様）
事務局として検討、以下のとおり。 （大久保）→推奨する文面ではなく、また補完代替療法は相談支援センターへの問合せが多いため、注意喚起の観点からも必要な項目である。 →増田先生と再調整し現状通りとした。		
9	P18（5）ゲノム医療 <7行目>「治療選択に役立つ… <15行目>…他の治療を検討します。」	（大湾様）
事務局として検討し、上記の箇所を削除とする。		
10	P18（6）口腔ケアとがん治療 （島袋） 病院での指導があり、掲載の必要はないと思う。	（島袋様） （中山様）
事務局として検討し、削除とする。		

11	P21 (2) 主治医の説明を聞く → (田盛) 患者会(やいまゆんたく会)の立場からすると、必要な情報であり、残してほしい。→検討「簡潔にしてはどうか」	(中山様)
事務局として検討、以下のとおり。 (大久保) 削除の必要があるならば、①«2 行目…このときひとりやふたりではなく 3～5 人→簡潔に» ②«4 行目…よく「家族に心配は…」とか「こどもが内地で…」という患者さんがいますが» ③«10 行目…30 分以上の時間をもらいましょう» ★«19 行目…説明は一度限り…に伝えてください。»は重要で残すべき。 →増田先生により本文修正中		
12	P24 書籍とインターネットで情報を探す…はじめの 3 行は削除、若しくは文章を短くする。 例) 推奨書籍：国立がん研究センター…「患者必携…ガイド」と記載してはどうか →検討	(宮城様)
※ 1 と同じ		
13	P36 イラストを変えるか削除 (宮城) イラストの表情が辛そうで、変更若しくは削除してはどうか → (金城) 同意見 → 変更もしくは削除	(宮城様) (金城様)
事務局として検討し、イラストを変更とする。		
14	・P48 (3) がんとセクシャリティを 1～2 行にまとめて、P47 に加える。1 ページ要する必要はないため P48 削除希望 ・P46～48 自分らしく毎日を過ごす 2 ページくらいにまとめる ・P47 以下の症状が…以降削除してはどうか、P48 がんとセクシャリティがイラストとともに半ページで良い (中山) 項目としては大事だが、P48 は特に 1 ページ分は必要ないと感じた。 → (島袋) 大事な項目ではあるが、情報を削減し、2 ページ程度にまとめられると思う。 → (宮城) 2 名に同意見 → 情報量の削減とイラスト縮小を検討	(中山様) (島袋様) (宮城様)
事務局として検討、以下のとおり (増田) →がんとセクシャリティは重要な情報。項目は全て残す 項目の移動あり (意見 15 のとおり) (大久保) → がんとセクシャリティは必要な情報であり文面も縮小せず掲載希望。イラストに若干違和感があり、若い男女だけの問題ではなく現状は同姓婚等、多様化している。変更し縮小、削除でも良い。 ▷文章は現状通り、イラストを変更 (例：シェイクハンドのアップなど) ⇒P47 項目 (2) 下記、箇条書きを縮小するため、中山さん、島袋さん、宮城さんに再度検討を依頼した。 →増田先生と再度調整の結果、箇条書きを削除し、本文を修正し簡潔な内容にまとめた。		
15	P50～51 ■ 院内学級の特色について、小児がんの長期入院は、琉大病院と南部医療センターに集中しており、入院直後に情報を得られるため、情報を省略し 1 ページにまとめてはどうか。 (佐久川) 従事先院では診断が付くとすぐに院内学級の先生が挨拶に来て情報を伝えるのが基本であるため、本冊子から親が情報を得る事はほとんどない。自分が本冊子を活用し、情報提供をするのであれば、1 ページにまとめた方が良く、更に子どもは集中力がないため YouTube にリンクできる QR コードがあれば活用の範囲が広がると思う。 → 検討	(佐久川様)
※県内院内学級情報の QR と、YouTube があればその QR コードも記載する		
16	P61 体験談 (宮城) 意見削除 → 承諾	(宮城様)

17	P62 第 2 部 7 章のタイトル「最期まで自分らしく生きる」について、<u>最期までの</u>文言がドキッとする。告知を受けたかばかりの方が冊子を読んだ時にイヤだと思う。 また、緩和ケア＝ターミナルケアではない。情報が古い印象があるため P63 削除を希望 →（宮城）中山さんと同じ意見である。ページ担当として悩みながら校正を行い、緩和ケアにおけるターミナルケア「<u>緩和ケアの中の一部分</u>」であることを強調したつもりである。P62.63 は SW ワーカーの方が患者さんへの説明時に活用されている重要なページということですが、私「看護師」の立場からは、がんと告知されたばかりの患者さんがこの項目「P62～P64」を見た時にどう感じるか、皆さんのご意見を聞かせてください。 →（田盛）やいまいゆんたく会患者会の立場から、離島に住んでいる私たちにとって、離島の病院に入院していると、最期をどこで看取るか、あるいは自身が最期は楽に生きたい、しかしどこに行けばよいか、家族でも分からない、そういった場合にとても貴重な情報である。→検討	(中山様)
	事務局として検討し、P62 タイトル最後までを削除し「自分らしく生きる」に変更とする。 P63 は削除。しかし、田盛さんの意見を鑑みて、離島の看取り施設（老健施設の情報等※診療所は看取りなし）の有無等の新設ページ（1 p 追加）もしくは現状のまま→各位に問う →（大久保）P62 個々により要望が違いため連携先施設も違ってくる。患者と家族間の相違等も含め複雑な案件である。離島地域の施設の充実度や対応の差もあり、情報提供は非常に難しい。提供するのであれば療養場所ガイド＜医療機関一覧＞ページが適している。本冊子上で新設するのであれば、P30 が適していると。 P63 に関する現状は、主治医から紹介状を渡された後の説明が不足しているため、情報提供が必然であり削除は望まない。 →増田先生と再度調整し、現状通りとした。	
18	P72（6）確定申告による医療費等の控除 （中山）社労士の先生を前に提案しづらいが、P72(6)確定申告による・・・その前の P71 の年齢区分の箇所から含めて、私もがん患者であったので、役所に行くと説明を受ける内容である。どこまで本冊子に載せる必要があるのか教えてほしい。 →（金城）私が直接担当のページではないが、高額療養費の制度についての項目内容は、充分ではない。制度説明には個々の収入額が必要であり、対応も様々で難しい制度なため、詳細を記載するよりは、制度を紹介するのみで良いかもしれない。昨年度編集委員で SW 山田さんから、表「P69・70」を使って説明をしたいということで質問が何度もあったが、やはり表だけでは補えない制度である。 →（大久保）相談支援センターの立場から P68～P71 は実際にフル活用しているページである。まず、役場に相談に行くという発想がない方がほとんどであり、社保か国保かすら自覚していない方も多いため、SW の実務的には過不足なく、必要な情報であり、状況に応じて窓口（役所等）を案内する。患者さんの家計のやりくりに使われる表「P70」また年齢区分箇所「P71」も含め、継続掲載を希望する。P72 に関しては貸付を利用する方も少なく確定申告も同様であるため、削除でよいのかもしれない。 →（金城）高額療養医療制度は社会的な資源であり患者さんにとって大きな支援になる。相談支援の現場でこの表を使って説明されることに感謝します。年度毎に数字が変動するため法改正に伴い情報を提供できるようにする。 →（片倉）先日、熊本の病院に入院した際に高額療養医療制度については、地域連携相談室から 6 ページ程の説明書を頂いた。がんではなく脊髄損傷に対する再生医療の件ですが、各病院で	(中山様)

	「高額医療制度等の説明書」が作られているので、がんになったばかりの人に、高額療養医療制度の取得は促すが、細かく説明する必要があるのか、また本冊子の当該項目全てを読まなくては申請できないという誤解を招く。制度の照会と窓口の案内だけの記載でよいのではないか。 →（田盛）P72（6）確定申告による医療費の控除は、削除の方向で進んでいるようですが、実情は、医療費の控除が受けられる事を知らない方が多く、役所や税務署へ出向いても職員が教えてくれるわけではないため掲載を希望する。「2 行目」税金を軽減します。→軽減出来ます。文言訂正を提案。→検討	
	事務局として検討、以下のとおり 増田→P71 集約できないか。 → 改めてご専門の金城先生、高嶺先生に検討して頂き、変更内容を基に各位に承認していただく。 →金城先生、高嶺先生のご意見を踏まえて、事務局案を再度検討中。	
19	P96.97 役所・役場一覧 削除検討 （金城）就労支援の現場で患者さんに対応するが、自分の自治体を知らないことはないのでは掲載の必要はないのでは。→反対意見特に無し。検討	（金城様）
	役場一覧は削除。県社協の掲載必要か、大久保に確認し削除とした。	
20	体験談の掲載について（意見）同一人による体験談は単年度のみの掲載にして、掲載する人数を制限して行えばページ数の削除にもなります。又、年度版毎に新たな体験談の掲載を行うことで、より多くの患者さんの体験談を掲載できるようになるので、会員さんがより関心を持つようになり、良い結果に繋がるものと思慮します。 ・理由：ハンドブックは発行される度に患者会の会員に配布される為、殆どの会員が年度版を全て手にしています。したがって、複数年同一体験談を拝読するよりも新たな体験談の拝読をできる方が良く、掲載を単年版で行う事によりハンドブックの有効活用が図れると思われます。 →（増田）患者の体験談は冊子に必要なか、改めて検討していただきたい。また、第3部「お金のことについて」は、制度が複雑であり年度毎に改正がある、片倉さんのお話し通り各病院で制度の案内があるので、本冊子では例えば項目だけを挙げ、手続きが難しいためがん相談支援センターにご相談ください。という情報提供のみというのはいかがでしょうか。大久保さん含め検討いただきたい。 →（大久保）これまでも医療制度に関する項目掲載の検討があつての現状だと思いますが、田盛さんからのお話しがあったように、制度を知らない方のためにも項目だけでも掲載したほうが良いというところから、詳しく載せる必要があるところはどこか、という増田先生の質問の意図かと思いますが、片倉さんがお話したように、各病院の医事課や入院準備室からの説明はあると思う。割愛する事も可能かもしれない。ただ、69 ページが良く作られており相談支援施設のない病院等や、相談員によっては詳しく説明できない場合も「制度額区分表」を用いることで患者さんの理解が得られる。活用の一端として継続掲載してもいいと思う。→検討	（田盛様）
	事務局として検討し、体験談は基本的に年度毎に入替える。また提供者の生存を確認する(ご家族への配慮は必須) 各位に承諾を得る。 更に、読者の負担を考慮し文字数を概ね 550 字、高齢者の体験談も取り入れるとした。 但し、ページ割の状況に伴い 1 話程度の削減も考慮するとした。	

21	第3部「お金のことについて」は、制度が複雑であり年度毎に改正がある、片倉さんのお話し通り各病院で制度の案内があるので、本冊子では例えば項目だけを挙げ、手続きが難しいためがん相談支援センターにご相談ください。という情報提供のみというのはいかがでしょうか。大久保さん含め検討いただきたい。 →（大久保） これまでも医療制度に関する項目掲載の検討があつての現状だと思いますが、田盛さんからのお話しがあったように、制度を知らない方のためにも項目だけでも掲載したほうが良いというところから、詳しく載せる必要があるところはどこか、という増田先生の質問の意図かと思いますが、片倉さんがお話したように、各病院の医事課や入院準備室からの説明はあると思う。割愛する事も可能かもしれない。ただ、69ページが良く作られており相談支援施設のない病院等や、相談員によっては詳しく説明できない場合も「制度額区分表」を用いることで患者さんの理解が得られる。活用的一端として継続掲載してもいいと思う。→検討	(増田先生)
	事務局として検討、以下のとおり (大久保) P73 (■ 計算方法 ■ 対象となる主な費用) 削除しても良い) 相談支援センターを利用される(物理的、心情的に利用できる)方はほんの一部であり、本冊子による情報提供は必然と考えている。 →P73 (■ 計算方法 ■ 対象となる主な費用) を削除とする。	

5. 各コンテンツの分担確認及び決定(資料3)

事前配布資料3「2022年版」台割表を共有画面に提示し説明。昨年度の分担を基に作成し、新たに参加された高嶺様については用務招聘時に担当箇所等説明済みである旨を伝え、時間超過により詳細は割愛する旨、各位変更希望等あれば連絡をお願いした。→(金城)一箇所変更を希望(P87)「離島やへき地に住む人向けの制度を知る」担当は高嶺さんだが、実際に離島で利用されている田盛さんが適任と考えるが、どうか→(田盛)離島へき地部会の委員もしているためその兼ね合いもあり承諾。

→全員の承諾を得、担当を変更「P78 高嶺 →田盛」

6. 制作スケジュール確認(資料4)

資料4.制作フローチャートを共有画面に提示し、編集委員用務終了予定期間及び、印刷から納品期間の3月上旬を目標に掲げ、詳細説明は割愛した。

7. 閉会

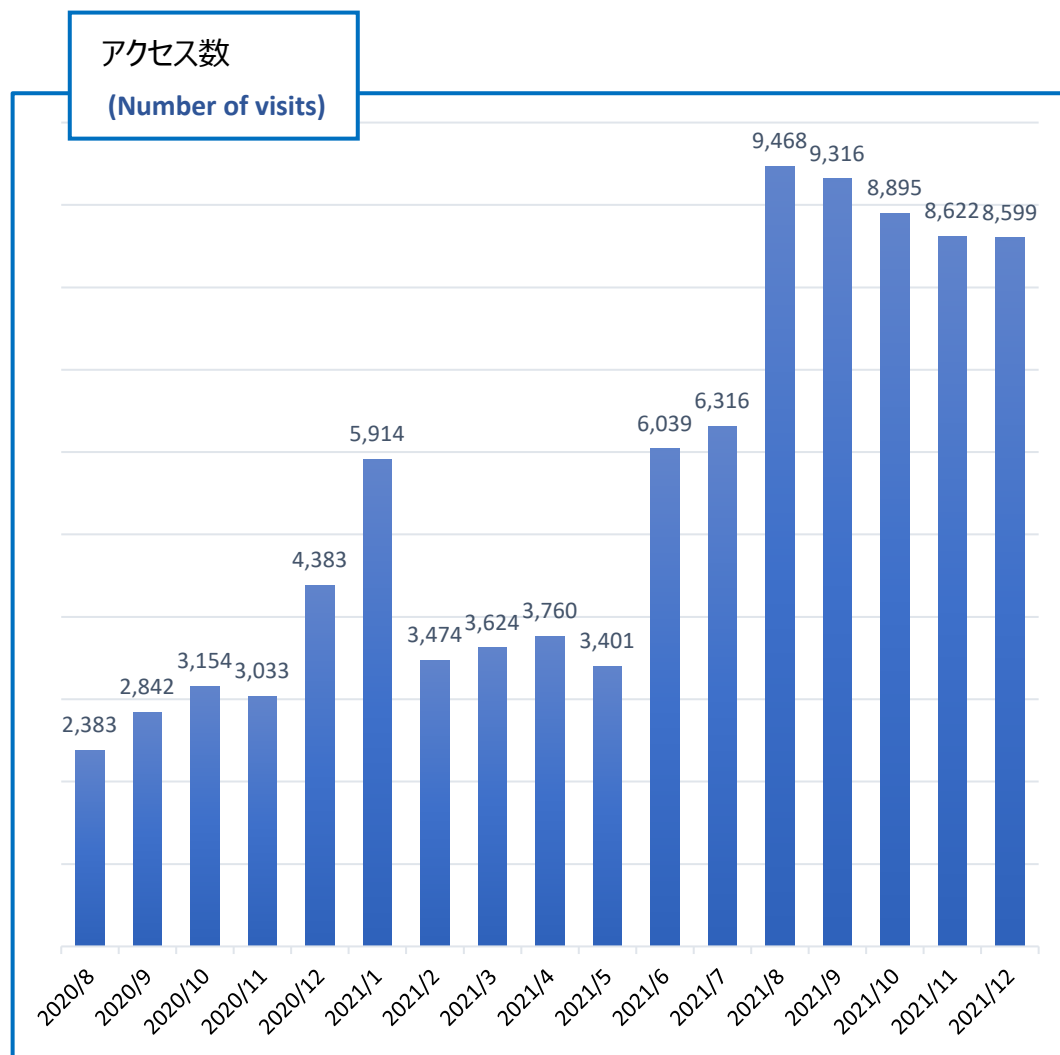
本日の協議内容は議事要旨にて各位に送付の旨を伝え、次回は必要に応じて開催とする。

以上により「第1回がん情報提供資料2022年版編集委員会」を閉会した。

予定超過により17:07閉会。

おきなわがんサポートハンドブック・サイト版アクセス数

※<https://okinawagansapo.jp/plesk-stat/webstat-ssl/>より抽出



月別	アクセス数 (Number of visits)	備考
2020/8	2,383	アクセス数カウント 開始
2020/9	2,842	
2020/10	3,154	
2020/11	3,033	
2020/12	4,383	
2021/1	5,914	
2021/2	3,474	
2021/3	3,624	
2021/4	3,760	
2021/5	3,401	
2021/6	6,039	
2021/7	6,316	
2021/8	9,468	
2021/9	9,316	
2021/10	8,895	
2021/11	8,622	
2021/12	8,599	
合計	93,223	